瑞穂町農業委員会委員との意見交換会

出席議員：香取 幸子、大和 雅彦、小川 龍美、下野 義子、古宮 郁夫、髙橋 洋子、川島 靖弘

９月25日、広報広聴委員会委員７名と瑞穂町農業委員会委員15名で、「農地について」「担い手について」「将来の瑞穂町の農業について」をテーマに意見交換を行いました。

農地については、「遠方に住まわれている方だと管理が行き届かない」「生産緑地制度を利用したい」などの意見をいただきました。担い手については、「販路の拡大や６次化への取組などで売上を上げる必要がある」などの意見をいただきました。「将来の瑞穂町の農業について」では「瑞穂町の農産品の良さを知ってもらう必要がある」「ブランド化も大切」などの意見をいただきました。今後、議会としては、さらなる農業振興を図るため、農業者や住民の声を聞きながら、町の施策が適正に行われているかなどをチェックしていきます。

６次化…生産、加工、流通、販売までを一貫して行う取組。

要請活動

横田基地外に降着

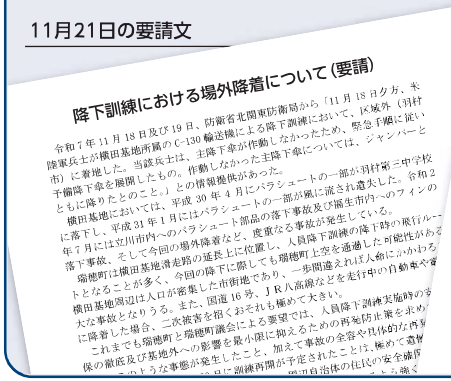
基地対策特別委員会

～町と議会合同による要請活動～

11月21日、議会は町と共に横田基地・北関東防衛局・北関東防衛局横田防衛事務所に対し、米陸軍兵士の降下訓練における場外(羽村市)降着についての要請活動を行いました。場外降着発生の２日後に訓練を再開した直後、福生市内にパラシュートが落下したため、12月10日にも同要請先に対し、要請活動(郵送)を行いました。

原因究明の徹底、周辺住民の安全確保、再発防止を強く要請しました。

11月21日の要請文



降下訓練における場外降着について(要請)

令和７年11月18日及び19日、防衛省北関東防衛局から「11月18日夕方、米陸軍兵士が横田基地所属のC-130輸送機による降下訓練において、区域外（羽村市）に着地した。当該兵士は、主降下傘が作動しなかったため、緊急予備に従い予備降下傘を展開したもの。作動しなかった主降下傘については、ジャンパーとともに降りたとのこと。」との情報提供があった。

横田基地においては、平成30年４月にパラシュートの一部が風に流され遺失した。令和２年７月には立川市内へのパラシュート部品の落下事故など、度重なる事故が発生している。

瑞穂町は横田基地滑走路の延長上に位置し、人員降下訓練の降下時の飛行ルートとなることが多く、今回の降下に際しても瑞穂町上空を通過した可能性がある。

横田基地周辺は人口が密集した市街地であり、一歩間違えれば人命にかかわる大事故となりうる。また、国道16号、ＪＲ八高線などを走行中の自動車や歩

に降着した場合、二次被害を招くおそれも極めて大きい。

これまでも瑞穂町と瑞穂町議会による要望では、人員降下訓練実施時の安

保の徹底及び基地外への影響を最小限に抑えるための再発防止策を求め

このような事態が発生したこと、加えて事故の全容や具体的な再発

に訓練再開が予定されたことは、極めて遺憾

町自治体の住民の安全確保

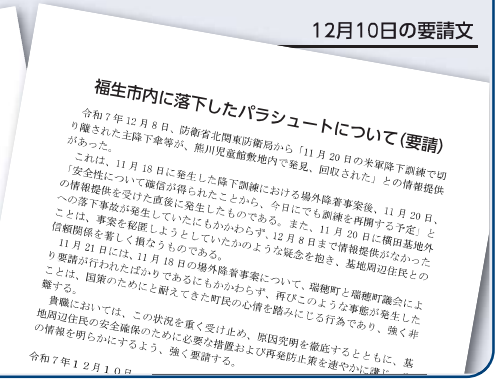
11月21日に横田基地内で降下訓練が行われ、翌日に羽村市内に降着した事態を受け、12月８日に横田基地内で降下訓練が行われ、翌日に福生市内に落下したことは、極めて遺憾である。

貴職においては、この状況を重く受け止め、原因究明を徹底するとともに、基地周辺住民の安全確保のために必要な措置および再発防止策を速やかに講じ

の情報を明らかにするよう、強く要請する。

令和７年１２月１０日

12月10日の要請文



福生市内に落下したパラシュートについて(要請)

令和７年12月８日、防衛省北関東防衛局から「11月20日の米軍降下訓練で切り離された主降下傘等が、熊川児童館敷地内で発見、回収された」との情報提供があった。

これは、11月18日に発生した降下訓練における場外降着事案後、11月20日、「安全性について確信が得られたことから、今日にでも訓練を再開する予定」との情報提供を受けた直後に発生したものである。今日にでも訓練を再開する予定」との落下事故が発生していたものである。また、11月20日に横田基地外ことは、事案を秘匿しようとしていたかのような疑念を抱き、基地周辺住民との信頼関係を著しく損なうものである。

11月21日には、11月18日の場外降着事案について、瑞穂町と瑞穂町議会により要請が行われたばかりであるにもかかわらず、再びこのような事態が発生したことは、国策のためにと耐えてきた町民の心情を踏みにじる行為であり、強く非難する。

貴職においては、この状況を重く受け止め、原因究明を徹底するとともに、基地周辺住民の安全確保のために必要な措置および再発防止策を速やかに講じ

の情報を明らかにするよう、強く要請する。

令和７年１２月１０日

みずほ まちなか会議を開催しました

届けられた声　皆さまと共に住みよい町へ
町民と議員との意見交換会

11月15日と22日に議会主催の「みずほまちなか会議」を3か所で実施しました。議会では、町民の方々の意見や考えを広く聴くためにまちなか会議を実施し、議会や議員による政策提案につなげています。各会場とテーマおよびいただいたご意見などは次の通りです。なお、15日に武蔵野コミュニティセンターで予定していた「みずほまちなか会議」は中止となりました。

11月15日(土) 10時～11時40分

会　場：町民会館
議　員：原 隆夫、下澤 章夫、森 亘、榎本 義輝、大和 雅彦、髙橋 洋子、川島 靖弘
参加者：7名（議員、事務局除く）

テーマ：「モノレール延伸を見据えたまちづくり」～新駅周辺をどのようなまちにしていくのか～

（No.６駅周辺まちづくり）

- これからは健康維持が重要になる。総合体育館があるといいのでは。
- 横田基地の飛行機の写真が撮れるメリットを生かして、道の駅のような施設があれば活性化するのでは。
- 農地を利用した観光農園も考えられる。

（No.７駅周辺まちづくり）

- カフェやお休み処があるといいんだけど。
- 駅前には子育てもできる多世代間交流施設が欲しい。

11月22日(土) 10時～11時40分

会　場：長岡コミュニティセンター
議　員：原 隆夫、下澤 章夫、森 亘、榎本 義輝、大和 雅彦、髙橋 洋子、川島 靖弘
参加者：5名（議員、事務局除く）

テーマ：「地域活性化について」～次世代人材の育成～

（町内会・自治会の現状と活性化）

- 個人情報が以前より厳しくなり、町内会長でも未加入者のことはわからない。
- 地域で住民自らが存在意義を感じられる流れを創りたい。
- 町の地域づくり補助金の申請は少しハードルが高い。

11月22日(土) 10時～11時40分

場　所：元狭山コミュニティセンター
議　員：古宮 郁夫、小川 龍美、大坪 国広、下野 義子、香取 幸子、井上 一也、浜﨑 崇
参加者：17名（議員、事務局除く）

テーマ：「地域活性化」～住み続けられる地域とは～

- 病院や買い物など日常生活に必要な施設がない。
- 車がないと生活が不便。
- 散策ルートづくりなど豊かな自然を生かしてはどうか。
- 子どもたちや中高生の意見、若者の参加が必要だと思う。
- 西武線を含む駅までのアクセスが活性化の鍵となる。

ご参加ありがとうございました。皆さまからいただいた貴重なご意見をもとに、今後議会として、より良いまちづくりに向け、議論を深めてまいります。